

活動① 『 絵本を読む 』

活動テーマ・設定理由

- ・子どもたちの大好きな絵本を読む。
- ・年少児の頃によく読んでいた相撲の絵本を進級後にも読みたいという声が上がったため、ばら組でも購入し、それを伝えた後一斉に読み聞かせをした。

活動スケジュール

- ・2025年7月～

準備したもの・環境設定

- ・絵本・マット

活動内容・子どもの姿

- ・保育者の前に集まり真剣に見入る姿があった。
- ・ユーモラスな場面では笑いが起こったり、相撲を取っている描写のシーンでは歓声が上がり、身を乗り出したり、時には立ち上がったたりしながら絵本の世界に没入している子どもたちであった。
- ・絵本を読み終わると子どもたちから相撲を取りたいという声上がり、相撲好きな男児らは絵本の一場面を再現したり、絵本に出てきた力士の四股名を口にしたたりする姿があった。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- ・気温が上がり、散歩やプール遊びを控える日々に、これまでは散歩先や園庭で遊びの中でやってきたお相撲対決を保育室でクラスみんなで楽しめるようにしていきたいと思い次の活動へと繋げていきたいと考える。



活動② 『 相撲を取ってみる 』

活動テーマ・設定理由

- 自分の役割を見つけて相撲に参加してみる。
- 相撲を取りたいという子どもの声を受けてクラスみんなで『ばら組場所』を開催する。

活動スケジュール

- 2025年7月～2026年3月

準備したもの・環境設定

- 土俵マット、子ども椅子、軍配、四股名表、星取表

活動内容・子どもの姿

- 室内で土俵マットを出して相撲を取る。
- まだ自分が相撲を取ることに意欲的でない子どもは力士以外の役割で参加する。
- 最初は、負けたくないからやりたくないという子どもが大勢いたが『すもうのずかん』や『はじめての相撲』の本を読んだり、日々の遊びの中で相撲を取ったりする中で、力士以外にも行司や呼出といった大切な役割があることを知った子どもたちは 行司や呼出ならやってみたくて声を上げてくれた。
- 『ばら組場所』を開催するために、自分ができること、自分がやりたいことは何かを考え、決める姿があった。
- 人前に出ること、人前で話すことに苦手意識を持つ子どもも、行司、呼出の役割の中で少しずつ自信を持てるようになっていった。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- 保育室で使っている相撲カレンダーや毎場所頂いて掲示している番付表を日々子どもたちと見たり、相撲図鑑などを読んだりする中で両国国技館の存在はクラスの殆どの子どもが認識している。
- 1月に両国国技館で初場所があることを知り、行ってみたいという気持ちになった子どもから声が上がっているため、クラスとしてどのような形でその願いを実現できるのかを模索していく。



活動③ 『 両国国技館へ行き幟旗を見る 』

活動テーマ・設定理由

- 実際にクラスのみなどで両国国技館へ行き場所中の雰囲気味わう。
- 土俵の大きさを知る。
- 両国国技館への興味関心が高まり、相撲好きな子どもから、両国国技館で初場所が始まっていることを知らされると、行きたい！という声が上がった。場所中にしか見ることのできない幟旗を見に行こうということになった。

活動スケジュール

・2025年1月23日

活動内容・子どもの姿

- 通常の散歩の時間に両国国技館まで行く。
- 場所中にしか見られない幟旗を見たり、同じく場所中に櫓から聞こえる寄せ太鼓の音を聞き本場所の雰囲気を肌で感じる。
- 国技館の中には入れないため、江戸 NOREN（両国駅隣の商業施設）にて原寸大の土俵を見る。
- 保育園から国技館までは2キロ弱あり、多少の不安はあったが、子どもたちは目的を持って意識をそこに向けて歩くことができていた。道中二か所の相撲部屋(高砂部屋、片男波部屋)の前を通ったり、通いなれた公園を含む二か所の公園(若宮公園、横網町公園)の中を歩いたりすることで意欲を保つことができたと感じる。また、帰りには安田庭園に寄り、池にはった氷を触るなど、散策をすることで気分転換にもなり、帰園時のモチベーションを保つことができた。
- 初めて場所中に国技館を訪れた子どもも多く、その賑わいに興奮している様子が見られた。
- 今回は中には入れないことを事前に伝えてはいたが、実際国技館まで来ると「中に入りたい！」という子どもが数名いた。
- 日頃から、天気のよい日は近隣の公園へと散歩に行き、大分脚力もついてはきているが、ここまでの距離を歩き昼食の時間までに帰ってくることは初めてであった。しかし、子どもたちの意欲は相当なものであり、保育者を驚かせた。

振り返り（次回のテーマ、どんな環境設定をするか）

- 国技館の中に入りたいという声が出ているため、子どもたちと一緒にまた訪れることを視野に入れていきたいと考える。
- 手作りの軍配が壊れてしまったことを気にかけている子どもから新しい軍配が欲しいという声が上がっているため、国技館の売店の営業スケジュールについて調べる。



活動④ 『 国技館へ軍配を買いに行く 』

活動テーマ・設定理由

- 国技館の売店に軍配のレプリカと絵番付を買いに行く。
- もう一度国技館に行きたいという声があがっていることに加え、手作りの軍配が壊れてしまったことを気にかけている子どもから新しい軍配が欲しいという声が上がっているため、散歩の時間に再び国技館まで行き、売店に寄る。

活動スケジュール

- 2025年2月19日

活動内容・子どもの姿

- 場所中に幟旗を見に行ったこと、両国国技館まで歩けたことが大きな自信となり、足取りはとても軽かった。
- 子どもたちの中には両国国技館へのルート覚えていた子どももあり、次を曲がるよね、もうすぐだね、と見通しを持って目的地へと向かう姿があった。相撲部屋の名前も覚え、口になっている子どもも大勢いた。
- 売店は他の客もいるため、公園や道路とは異なる公共の場所での過ごし方を今一度子どもたちと話し合い出発をした。11月にクラスの遠足で都バスに乗った経験も活かされ、売店の中ではどのように過ごすのかを子ども一人ひとりがしっかりと考え行動することができていた。
- 初めて訪れる場所に戸惑う子どももいたが、徐々に緊張感も和らぎ、様々な相撲関連の品々に興味深々の様子であった。陳列棚に購入目的の軍配を見つけた時には、声を抑えながらも口々に「あった、あった」と喜んでいった。

まとめ

- 日々様々な場面で、子どもたちの興味がどこに向かっていくのかを察知して、子どもたちの声を聞きながら活動をしてきた。相撲に関しても、ここに記した事柄だけでなく、ファミリーデー(運動会)ではちゃんこをテーマにした親子競技を行ったり、子どもたち全員が自分の四股名を考えて『ばら組場所』を幾度となく開催したりと、年間を通して相撲に触れてきた。これからも、絵本から得られる子どもたちの気づきや興味関心をそこに留まらせることなく、共に楽しみ、探求する保育を心がけていきたい。

